



meiji

Meiji Seika ファルマ

Meiji Seika ファルマ株式会社

新薬・ジェネリック医薬品・農薬・動物用医薬品などの優れた製品を国内外へ提供する明治グループの薬品会社です。

本社：東京都中央区京橋二丁目4番16号
 設立：1916年10月9日
 資本金：283億63百万円
 従業員数：4,035名（連結グループを含む、2013年3月現在）
 URL：http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/

（取材日：2013年12月）

POINT

費用／人員(工数)／進捗を一元管理。
 プロジェクトの全体進捗を
 WebFOCUSでタイムリーに可視化！

精緻なダッシュボード画面も
 WebFOCUSで短期間で
 開発／改修が可能

限りある資源を再配置しながらリ
 ソースを最適化。コスト意識の高い
 プロジェクト運営を実現

プロジェクト状況をタイムリーに可視化 研究開発資源の投資状況を WebFOCUSで最適管理

国内外に医薬品を提供しているMeiji Seika ファルマ株式会社は、新薬の研究開発における、費用／人員(工数)／進捗などの「資源管理」を最適化するシステム開発に着手。WebFOCUSをベースにプロジェクト管理の仕組みを導入して進捗状況を可視化し、研究開発のマネジメントの効率化と、研究開発機会の最大化に貢献しています。

課題

対策

効果

- 研究開発プロジェクトごとに費用、人員(工数)、進捗など“資源”の管理手法がバラバラ
- プロジェクトの投資状況を迅速に把握できず、資源を有効に活用できない
- 限られた関係者しかプロジェクト情報にアクセスできない
- 何度かシステム開発を試みたがコスト、仕組みの複雑さがネックで断念

- プロジェクトの全容を可視化する“資源管理システム”を構築
- Oracle EBSでプロジェクト情報を収集し一元管理
- WebFOCUSで投資状況や進捗状況を見やすくグラフ表示
- 豊富なERPの構築実績のあるSTNetのシステム提案を採用

- 投資状況をタイムリーに閲覧でき、課題の早期発見、資源の再配置が可能に
- 年間予算の消化率のブレがわずか±1%内に縮小、予算の精度も大幅に向上
- 1日ばかりだった会議資料の作成がわずか10分に短縮
- マネージャ層およびプロジェクトマネージャのコスト意識と経営マインドの向上に寄与

業種：製薬業
 データソース：Oracle E-Business Suite
 プロジェクト管理モジュール
 SAP
 利用業務：新薬およびジェネリック医薬品の研究開発マネジメント

協力パートナー：

STNet

既存基幹システム
(会計)

SAP

プロジェクト
管理システム

Oracle EBS

ダッシュボード
レポートWebFOCUS
DataSurfing

WebFOCUS

稼働中のプロジェクトを どう適切に管理するか

医薬品の研究開発は、莫大な費用や人員を長期にわたって必要とします。そのためMeiji Seika ファルマの研究開発本部では、社内で並行稼働しているすべての新薬およびジェネリック医薬品のプロジェクトについて、費用/人員(工数)/進捗といった「資源管理」を担い、最適化を促進しています。

従来、費用は予算管理、人員は要員管理と個別に管理されていました。また、プロジェクトごとにMS ExcelやWordで管理しており、それらの情報はプロジェクトごとにしか把握できませんでした。そのためプロジェクト全体の進捗状況は、予算会議前に情報を集めなければならず、限られた資源が全社として有効活用できているのかを可視化してタイムリーに判断することができませんでした。“全体をひと目で把握できるシステムがほしい”という要望は何度も上がっていましたが、開発コストと業界で前例の少ない取り組みであることがネックとなり、なかなか前に進めることができませんでした。

可視化できるWebFOCUSを ユーザインターフェースに選択

2011年4月にホールディングス体制となって、Meiji Seika ファルマが誕生したことが転機となりました。研究開発を進めるには、それが投資に値するプロジェクトであることを経営層に説明し、資金を確保する必要があります。そこで研究開発本部は、資源管理システムを構築して、研究開発状況をタイムリーに可視化、グローバルで激化する新薬開発競争に先んじた投資ができる取り組みを開始しました。

システム提案にはシステム・インテグレータ数社が参加し、最終的にSTNetによるWebFOCUSとOracle EBSを組み合わせた提案を採用しました。STNetは自らもWebFOCUSユーザであり、Oracle EBSのプロジェクト管理モジュールとの連携やERPとの構築に豊富な実績があります。

研究開発管理部 管理グループ 小菅正章氏は、WebFOCUSを採用した理由を次のように語ります。

小菅氏 今回のシステム化の目的は、ダッシュボード的な可視化でした。プロジェクト全体の進

捗や予算の消化具合、人員の配置をひと目で把握できるようにしたかったので、グラフを前面に出せるWebFOCUSのユーザ・インターフェースなら、予実対比をわかりやすく表示できると思いました。これならマニュアルなしに直感で使えるだろうと。また、WebFOCUSはパッケージのため、設定変更のみで、短期間で構築できるという点も評価しました。



小菅正章氏

業界でも前例の少ない取り組みのため、高いリスクが懸念されましたが、いつでも手戻りでき、活用しながらこまめに改修可能というRFPに対し、応えたのがSTNetでした。

可視化に徹した一次開発、 ユーザを広げる二次開発

まずは、限られた範囲のユーザを対象にした一次開発がスタート。ここでは主に、WebFOCUSによる可視化に機能が絞られました。

開発を前に、すべての関連部署にSTNet同行でヒアリングを実施し、現場の課題を聞き出し、要件へと反映させました。またダッシュボード画面は、グラフの色から画面遷移、コメント欄の設置などわかりやすいユーザ・インターフェースにこだわり、画面を見ただけで次のアクションを喚起するような設計を意識しました。自由検索ツール/Data Surfingで、データ抽出機能も提供しました。

わずか3ヶ月で完成したシステムは、トップ層向けのレビューで高い評価を受け、二次開発のGOサインが出ました。二次開発では研究開発本部全体にまで範囲を広げ、ユーザがOracle EBSへ工数や進捗を入力すると、WebFOCUSでデータを展開する仕組みが構築されました。そして、2011年1月の構築ベンダー選定から、予定通り2012年4月に資源管理システムが完成しました。

このシステムが機能するには現場でのデータ入力が必要としないため、ユーザからの要望を受けてシステムをこまめに改修したり、講習会を開いてシステムの活用方法を伝えるといった活動を展開しました。

会議資料の作成時間は10分、 予算消化率は1%以内に

導入から1年半が経過した現在、数百名にわたるユーザのデータ入力率は100%にのぼり、入力する習慣が現場に定着しています。そのため、マネージャをはじめ約100名の関係者は、WebFOCUSの画面上で、いつでもプロジェクトの最新状況を把握できるようになりました。

導入効果について、研究開発管理部 管理グループ 伊藤三恵氏は次のように語ります。

伊藤氏 このシステムでは、プロジェクトの全容がポートフォリオ的にグラフでパッとわかります。稼働中のプロジェクトに資源が理想のバランスで分散されているか、予算が不足しそうなプロジェクトはどれか、人員配置や時間の使い方は適正かと



伊藤三恵氏

いった投資状況が簡単にわかり、トップ層が次の指示を迅速に出すことに役立っています。また、指示をもらわなくても、進捗状況に応じて自らアクションを起こすことにも役立っています。

さらに予算の消化状況も随時確認できるため、プロジェクトに割り振られた予算を過不足なく活用できるようになりました。毎年発生していた予算と実績のブレも、今では1%以内に収まり、予算策定の精度も上がっています。

小菅氏 すべてのデータが資源管理システムにあるため、これまで一日を要していた会議資料の作成時間がわずか10分に短縮されました。また本システムの利用が浸透した結果、現場の一人ひとりがコスト意識や経営マインドを持てるようになり、費用や要因の使い方や会議自体の見直しなど、改善活動が活発化してきました。

今後は、高いパフォーマンスを上げているメンバーの仕事をベストプラクティスとしてモデル化するなど人材育成計画に取り組んだり、プロジェクトごとのコストをより厳密に管理していく仕組みとしてWebFOCUSを活用していく予定です。